

俺は臺灣柳の皮の剥いでないバスケットを七圓幾錢で驛の近くの洋品店で買ったのを提げて、聯絡船に乗った。

そして下關から一番の三田尻行に乗った。

徹夜したので頭に穀が出来て、脳味噌は元のコージに蒸し返されたようだった。

柳井津に停車した時俺は感慨に堪えなかつた。

柳井津の警察に一週間も留置されて、おまけに出される時、保護だからと言つて、辨當代まで拂はせられ、下關までの切符は無効になるし、井戸端で顔を洗ふ時、クラ／＼として井戸の中へ飛び込みそうに思つた程だ。

聖徳太子でも此んな目にはお逢ひにならなかつたらう。

汽車が岩國へ着いた時俺は降りた。

岩國の町は電車に乗り換えて二十分だ。

眠くてならない。

赤縞の洋服と同じオーバーを着て首巻をした、